

令和元年度第2回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	令和元年5月21日（火）午後2時～午後3時50分	
会場	新潟市役所本館3階 対策室1	
出席者	出席委員	山賀会長、中澤副会長、西條委員、住吉委員、関谷委員、 西海委員、阿部委員、井下田委員、石本委員、小林委員、 鈴木委員、鶴巻委員、渡部委員 計13名 (欠席 石井委員、星島委員)
	事務局	循環社会推進課長、廃棄物対策課長 ほか
主な議事	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 新潟市一般廃棄物処理基本計画の改定について（審議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期「新潟市一般廃棄物処理基本計画」の基本的事項について ・一般廃棄物処理施設（焼却施設）のあり方について <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>	
主な議題	<p><審議の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期「新潟市一般廃棄物処理基本計画」の基本的事項について 資料に基づき事務局が説明を行った後、各事項について資料1参考資料のほか、委員から発言をいただいた。 	

・一般廃棄物処理施設（焼却施設）のあり方について
資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めた。

<議題>（主な質問・意見等）

（１）新潟市一般廃棄物処理基本計画の改定について（審議）

・次期「新潟市一般廃棄物処理基本計画」の基本的事項について

< 1 基本理念 >

- 「循環社会」という言葉を入れた方が良い。
- 現計画を踏襲した内容で良い。審議を進める中で必要があれば表現の変更を検討すれば良い。
- 現計画と同様で良いが、「ともにつくる」という文言は「協働」と同義のため削除して良い。
- 前計画と同様の記載でよい。しかし、「環境先進都市」は新潟のブランディングにつながる重要な部分。今後の審議の方向性のためにも、「先進」という言葉をどのように捉えるかを考えておかなければならない。
- 「環境先進都市」や「協働」という言葉は行政的な表現のため、変えた方が良い。よりやわらかい言葉で表現した方が受け入れられやすい。しかし、基本理念は数値目標や基本方針とも密接に関わる部分なので、他の議論をした後から決めても良いと思う。
- 「環境先進都市」という広い意味の言葉ではなく、「循環型社会」や「地域循環共生圏」など廃棄物の計画に沿った言葉の方が理念としてはふさわしい。

市～ 「環境先進都市」という言葉は、ごみの適正処理だけではなく、CO₂削減の取組みも含めての言葉だと考えている。しかし、現計画に基づき「先進都市」を目指して取り組んできたが、他都市の方が取組みが進んでいるところもある。「循環社会」「低炭素」という言葉は非常に良いキーワードのため、その二つの言葉についてさらに意見をいただきたい。

- 3R のことも考えると「循環」という言葉は非常にわかりやすい。
- 10年後も使えるような言葉が良いと思う。
- 資源を循環させることは投資の機会になるため、ESG投資やソーシャルインパクトボンドのような流れが生まれている。環境先進都市を目指すのならば、資源を循環させるためにさまざまな人が関わるチャンスが生まれる。あえて「環境先進都市」を打ち出すのであれば、

それは十分に新潟のブランドになる。一方で、「ごみ」という言葉はやめて「資源」という言葉に統一するなど、戦略的にフレーズを検討いただきたい。

- 「低炭素」では意味が広すぎる。計画でどの範囲までやるかを考えたうえで「低炭素」という言葉を入れるかを考えた方が良い。
- 「ごみが資源になる」というキーワードは非常にわかりやすい。

<2 数値目標>

- 減らさなければならない量が数値だけではわかりにくいいため、図表化した方が良い。
- 目標を変更するのであれば、現計画の結果を確認したうえで、どこに力を入れていきたいかを考えて設定すべき。
- 家庭ごみの減量については、減らさなければならない量をわかりやすく表現した方がより身近な問題として捉えられるのではないか。事業系ごみについては、食品ロスが多いのではないか。
- 「循環型社会」が理念の中核と考えるならばCO₂削減が最上位の目標になるべき。経済に連動してはじめて人々にメリットが生まれ、協力的な気持ちになる。そのため、経済的な視点を考えずに、単純な目標を立てるのは非常にもったいない。「ごみ」を「資源」に読み替えることで、世界に新潟の取組みをアピールできるチャンスが生まれる。
- どこにターゲットをしぼるかを考えるのは早計なのではないか。国の掲げる目標値を達成するために、市ではどのような項目を達成しなければならないかを踏まえつつ設定すべき。そのうえで、市民にとってわかりやすくなければならない。そのため、目標値を設定する議論については保留しておいた方がよい。
- 家庭系ごみについては、組成調査の結果によると、生ごみと紙が多く含まれており、減量が必要だという話だった。その部分については指標化しなくて良いのか。それが達成しなければならないKGI（重要目標達成指標）なのだとなれば、その下にKPI（重要業績評価指標）がどのように設計されていくのかが重要。数値目標だけを見ても設計しにくい。
- 数値目標が示してあってもピンとこない。市民としては、基本方針の部分が事細かに書いてあると実感が湧いてくるのではないか。

市～ 本来であれば、まず都市像を決め、その都市像に向かった目標数値を立てて設計をしていくものと考え。これから方針や施策を作る過程で事務局からある程度の枠組みを提示しつつ、数値目標につ

いても委員と一緒に調整していければと考えている。

- 近年、ごみは経済を動かす上流として大きな影響力を持っている。ごみを資源として考えるならば、減量を考えるよりも、分別方法や、分別するための技術や取組みの方が世界からの関心が高く、そこから色々な形で波及効果が期待できる。そのため、数値目標は熟考しなければ、10年後には先進都市どころか後進になることは目に見えている。
- 「循環」や「持続」がキーワードになってくる。経済として、資源化に持っていくのは非常に重要なこと。ごみと資源の線引きや、資源をどのように循環させていくかが重要。基本的には「循環」「持続」という言葉と「食品ロス」などの言葉を使うような数値が必要なのではないか。
- 理念があつての目標。次期計画の理念を「環境先進都市」として出すのか、それとも「循環型社会」とするのか、どちらを選ぶかによって目標値も変わってくる。理念をきっちり決めたいうえで、理念に向けた目標を事務局から出してもらわなければ話が進まないのではないか。

市～ 本日いただいた意見を踏まえながら、次回の審議会で目標を形にできたらと考えている。

< 3 基本方針 >

- 3R（リデュース、リユース、リサイクル）は外国語でわかりにくい
ため、よりわかりやすい言葉で表現できたら良い。
- 幼稚園や保育園の頃から参加型の環境教育をしていくことで食品ロスの削減につながるのではないか。
- 基本方針1の「情報提供の充実」と「資源の分別促進」は連動するような記載でもいいのではないか。市民はそもそもごみの分別がわかっていない場合も多い。分別についての情報が浸透すれば、より分別の促進につながる。
- 食品ロスやプラスチックごみの削減を打ち出しても良いと思う。食品ロスについては、食品ロス削減推進法で行政の責務としてフードバンクへの協力が記載されている。ただ単に抑制するだけではなく、どのように再利用していくかという観点も踏まえた方針ができれば良い。
- 現計画は方針ごとに取り組む対象を分けているような印象があるが、違う分け方ができないか。見やすくするために方針を増やすという方法もある。討論をしたうえで、他市町村も参考にしながら設

定した方がわかりやすい方針になる。

- 市民・事業者・行政が協働することが前提で、それぞれの利害関係者にささるキーワードは「経済」だと思う。それぞれにメリットがなければ現実的には動かない。経済的なことを考えつつ、どのように行政予算を区分するかとして二つの考え方がある。一つが循環型社会のプロセスを考えて時間軸で区分していく考え方。もう一つが、ごみ処理に必要な施設や機能を考える中で、それを用途によって区分していくという循環型社会を空間的に捉える考え方。現在の基本方針は、線引きの考え方がわからないため、理念が空に浮いている状況となっている。世界からどう見られるかという視点が10年の計画期間を考えたときに非常に重要。方針も基本的に「ごみ」と考えるため、減らすことが正になってしまう。
- 一般廃棄物処理基本計画という名称がネックになっているのではないか。名称は変えられないのか。

市～ 名称は変えることができる。他自治体でも名称を変えている事例もある。委員からはさまざまなご意見をいただいた。「経済」という観点は非常にわかりやすい。また、KGI、KPIについても、市民に伝えやすく、理解しやすいということであれば活かしていきたい。

< 4 その他 >

- 一般廃棄物処理基本計画は、廃棄物を減らすことと循環型社会をつくることのどちらが目的なのかがわからない。
- 「ごみが資源になる」という発想をいい方向に持っていけたら良い。
- 今まではごみを減らすことだけを考えていたが、経済的視点からの話を聞き、発想が変わった。
- 基本理念の落とし所によって基本方針は変わってくる。
- 廃棄物に関心がない人にも見てもらえるようなわかりやすい名称や内容にすべき。
- 「持続可能な社会」という観点は外せない。世界的に「SDGs（持続可能な開発目標）」がキーワードになってきている。また、「地域循環共生圏」には、資源としてどのように経済を回していくのかという概念も含まれているため、そこを盛り込むとより「環境先進都市」という言葉に合っているのではないか。
- 計画にさまざまなことを盛り込みたいという各委員の思いがあると思う。しかし、本市は環境基本計画も策定しているため、そちらに抵触しないよう基本方針をもっていければいいと思う。

- 最も重要なポイントは「ごみ」か「資源」かということ。「ごみ」と考えて減量を徹底した場合、経済市場を狭めることになり、税収が減り、さらに暗い未来を呼び込むことになる。そのため、「ごみ」か「資源」かという問題は非常に重要。資源からテクノロジーや外部的な資金を集め、技術を持った人が参画することによって、諸外国から関心を集めて、観光という形でインバウンドにつながる。多くの人を巻き込むためには、リターンを考えなければ、協働して循環していくという流れは生まれない。

・基本方針4 一般廃棄物処理施設の処理体制の構築（焼却）

- 「更新施設」とは、現在稼働している施設を建て替えるのか。それとも新しく施設を建設するのか。

市～ どちらにするのかはこれからの検討事項。

- 2施設体制にした場合、1施設で処理するエリアが広がるが、市内全域をカバーできるのか。また、施設数が減少すると、燃やすごみの収集も週2回になるという理解でいいのか。

市～ 本市と同等の人口規模の都市は2施設または3施設で稼働している場合が多い。また、収集回数については検討すべき課題として認識しているが、施設数の減少を理由に回数を減らすという考えではない。

- 施設の集約化によって運搬距離が長くなり、収集車から排出されるCO₂が増加することが考えられる。基本理念との整合性を考えると、CO₂対策も講じなければならないが、どのように考えているか。

市～ 焼却施設で発電した電力を使用し、電気自動車の収集車を導入するということも検討していきたい。施設の廃止により削減されるCO₂と、収集車の走行距離が長くなることにより発生するCO₂をどちらも把握しながら集約化していく。

- 国内でも川崎市や京都市で先進事例があるため、ぜひ環境先進都市としてよく検討してほしい。

- 新田清掃センターと更新施設の2施設体制について、新田清掃センターが1日に処理可能な量はどれくらいなのか。

市～ 新田清掃センターは1日で330トン进行处理する能力を有している。

- その場合、2029年度に想定されるごみ量215,000t/年は余力をもって処理が可能と考えてよいか。

市～ 可能。

傍聴者

1名